

潜る地層・上る地層

緩やかに起伏した頂上付近
住宅地が個々に広がり ある意味取り残された個半敷地
環境としては 住宅に囲われながらも 西側は緑の砂埃
南側は十数階建てのマンションがそびえ立つ
冬至には数時間の間 影が敷地を覆い隠してしまう そんな敷地

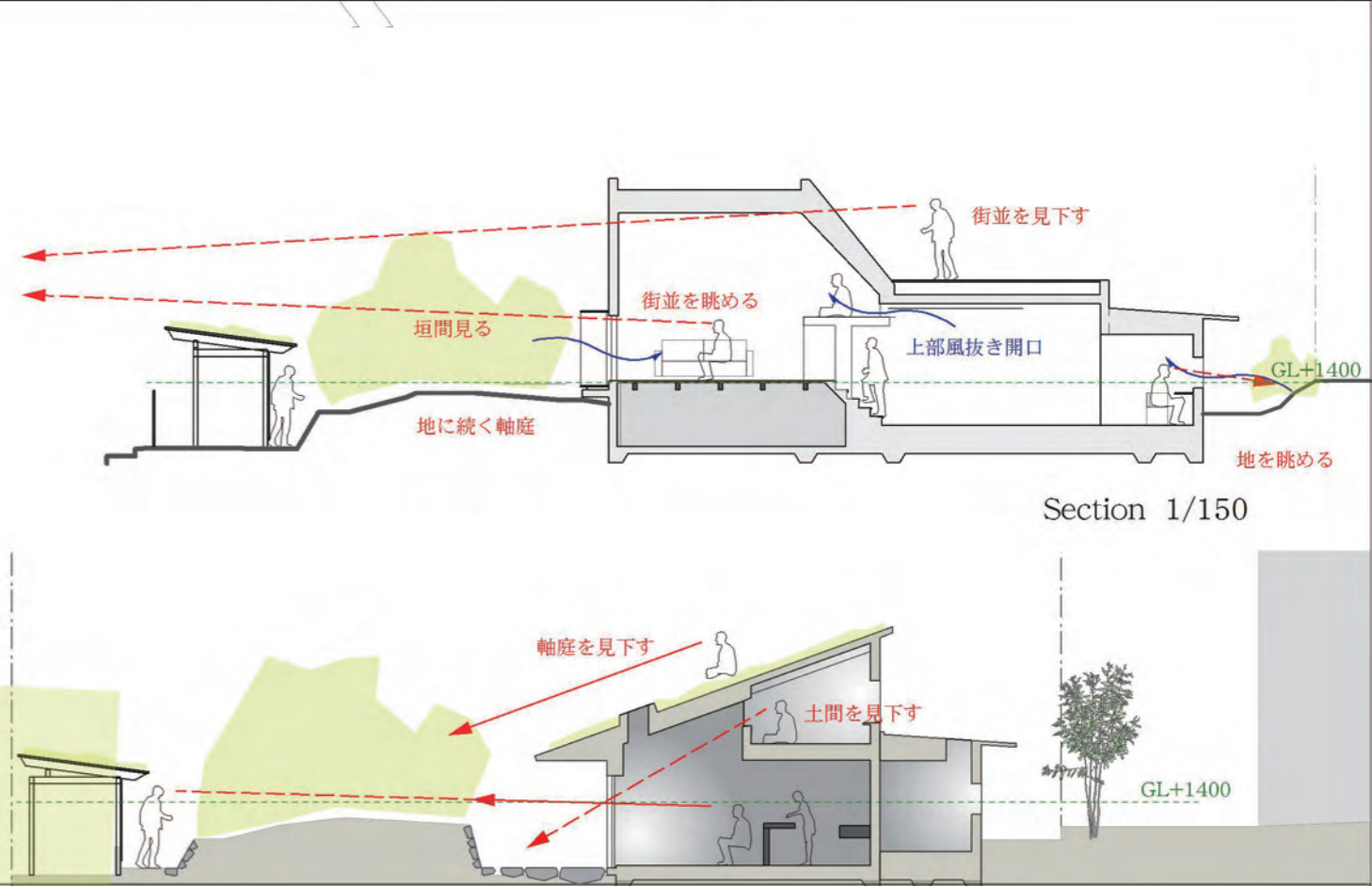
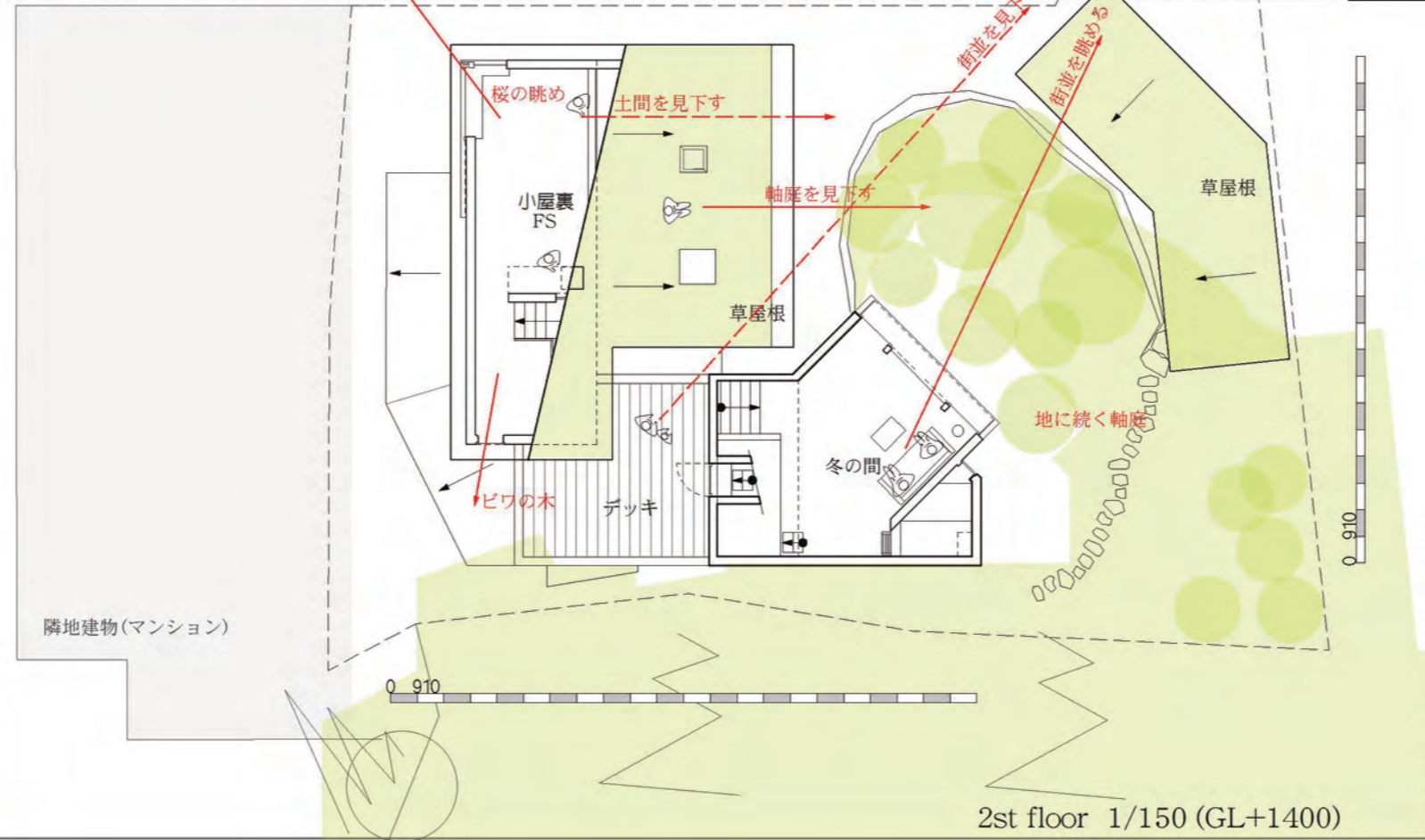
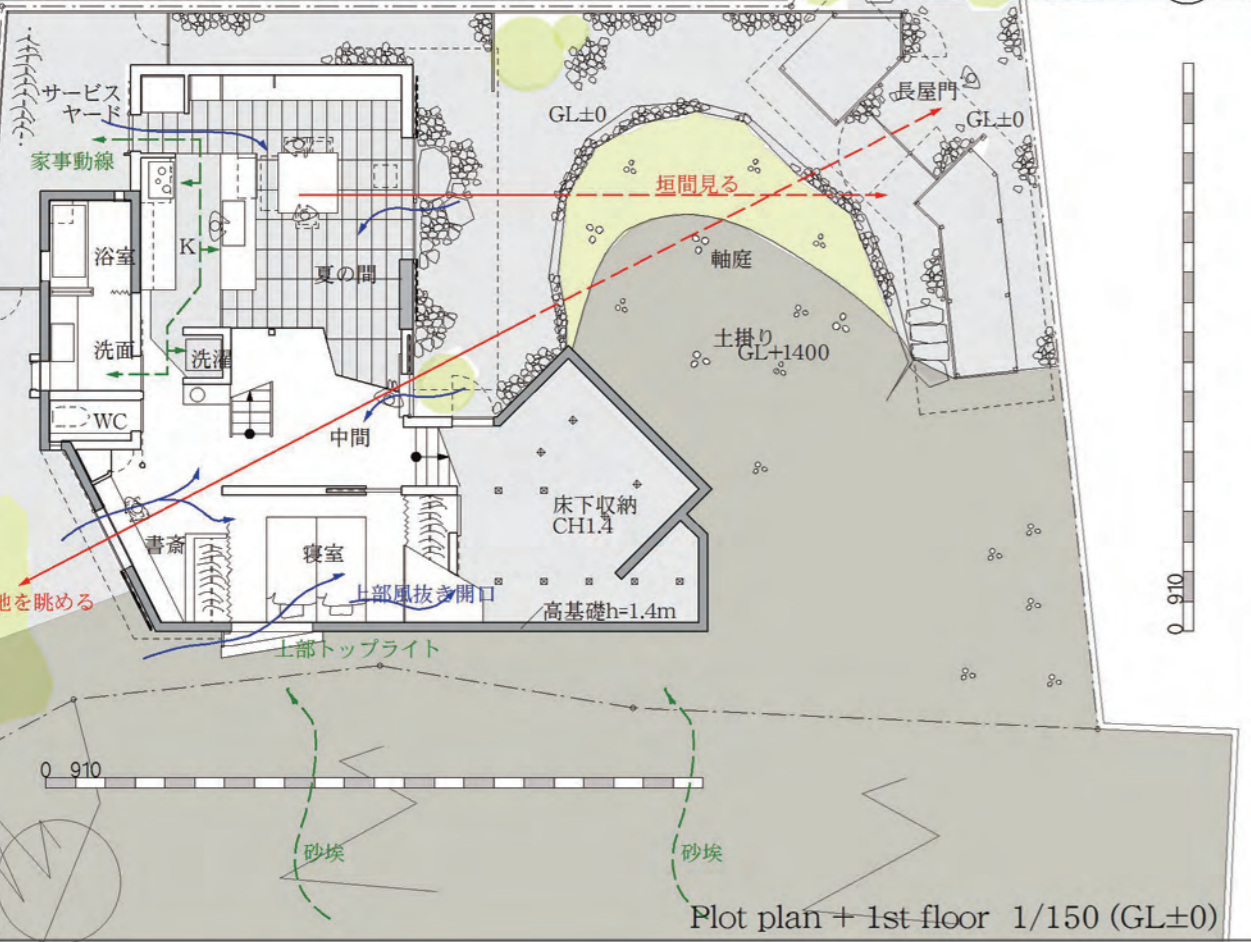
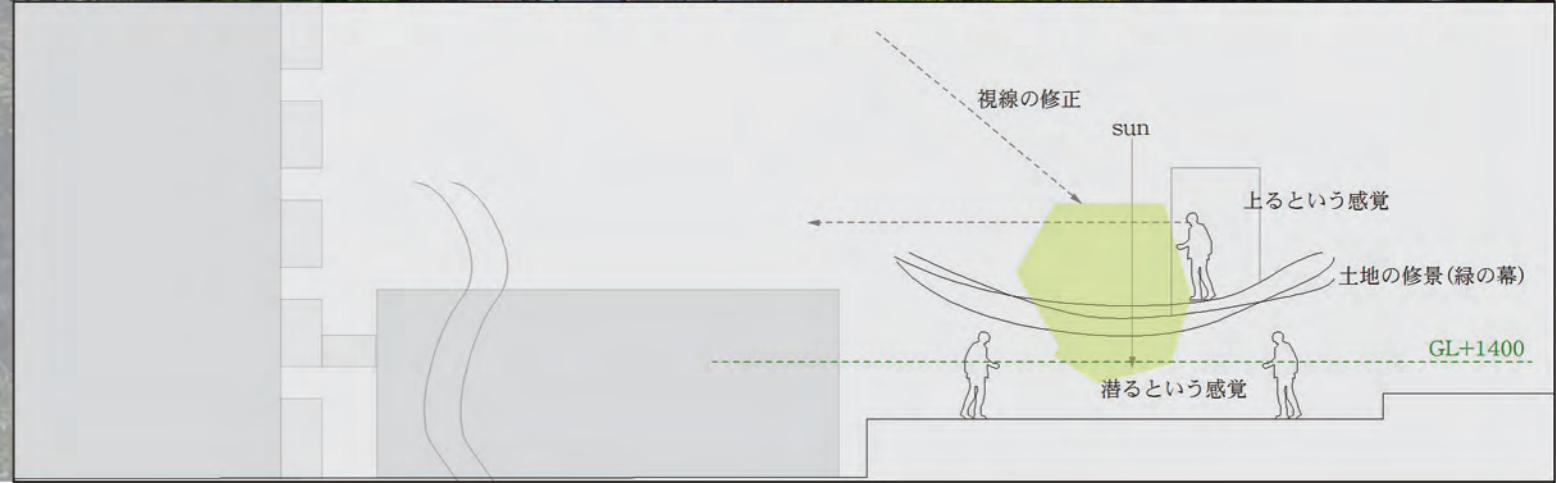
「住まいを敷地に置くのではなく その敷地に挟み込む」
それが私が思う土地の可能性だった

お施主さんの要望でもあった草屋根も その情景に役かっている

2レベルの地面が「軸庭」を解して 交互に連なる
各内部・外部からの視線の先に豊かな情景を創造した

後は 季節が彩りを添えてくれるだろう

潜る事と上る事
中から力強く湧き立つ様な生命力
そんな感情



Plot plan + 1st floor 1/150 (GL±0)

2st floor 1/150 (GL+1400)

Section 1/150



小屋裏との関係
自由な使い方



光のストック



CH1.4mの骨の昇降室
見下けると、間近に緑を長眺めれる



街が眺める、地面越しに



内外の一体感、つい開けっ放しにしたくなる



ここを潜れば、自然と落ち着く感覚る



朝も、昼も入りたくなる浴室



中間この建物の軸となる
腰掛、寝転ぶ、季節の設え、作業場にも

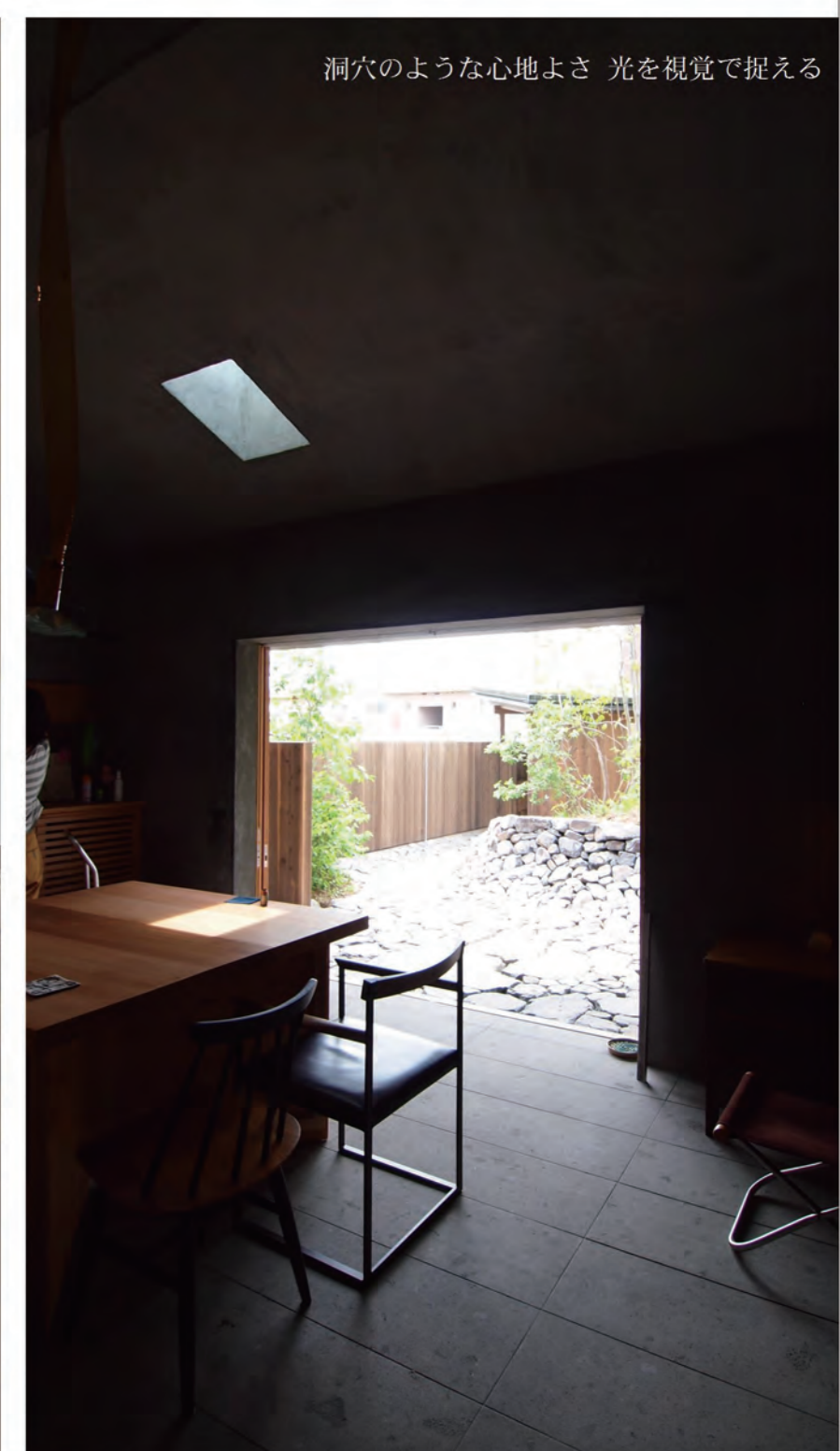
光が渡る気持ちよさ



動く光と静かな光
小屋裏からの光のストックを調整するのよし



開口高を抑えて 目線の先の心地よさ



洞穴のような心地よさ 光を視覚で捉える